

委員会報告

# 第9回アジア土木技術国際会議 (CECAR9) およびアジア土木学協会連合協議会 (ACECC) 第43回理事会 (インド・ゴア) 参加報告

土木学会 ACECC 担当委員会 幹事長

井上 雅志 (株) エイト日本技術開発)

## 1. 概要

ACECC (The Asian Civil Engineering Coordinating Council) は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展を目的として1999年9月に設立された組織であり、JSCEはその主要メンバーの一つである。現在は加盟学協会が16団体で、土木関連学協会の協力により学術・技術の促進に向けた諸活動を進めてきている。この度、2022年9月20日にACECCの最高議決機関である理事会 (Executive Committee Meeting, ECM) および、同年9月21日～23日に第9回アジア土木技術国際会議 (CECAR9) が、いずれもインド・ゴアにてハイブリッド形式で開催された。ECMは年2回、CECARは3年に1回

の頻度で開催されている。各イベントのスケジュールは表1の通りである。

## 2. 第43回ECM

(1) 技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)

TCCMでは、現在活動中の12の技術委員会 (Technical Committee, TC) の活動報告が行われた。JSCEがChairを務めるTC21 (Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters, TC chair: 石渡幹夫 (JICA)) については、塚原健一 副委員長 (九州大学) より、フィリピンにおける台風ヨランダの復興後調査やCECAR9後の活動計画等が報告されたほか、新たに3年間の活動延

長の申請が全会一致で承認された。また、同様にJSCEがChairを務めるTC28 (Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance, TC chair: 山口栄輝 (九州工業大学)) についても、中野雅章委員 (日本工営 (株)) より、九つの加盟団体から14人が参加していることやインフラメンテナンスに関するガイドラインの翻訳・作成に取り組んでいること等が報告された。

その他、大韓土木学会 (Korean Society of Civil Engineers, KSCE) より "Digital Technologies for Smart Construction" と題した新しいTCの提案があり、TC-30として設立が認められた。昨今の土木分野における重要なテーマであるため、関係者と協議しながらJSCEからもメンバー派遣を検討する予定である。

## (2) 企画委員会

PCMでは、ACECCの今後の活動の方向性やアジアにおける土木技術分野の展望について検討するACECC's Strategic Planの策定状況が報告された。また、加盟各学協会の若手研究者・技術者が集まるFuture Leaders Forum (FLF) について、月例で実施されているセミナーの開催報告のほか、ACECC若手賞の新設などの議

表1 ECMおよびCECAR9のスケジュール

開催日	現地時間	イベント
9/20 (火) 理事会 (ECM)	9:00-11:00	技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)
	11:00-12:00	財政委員会 (Finance Committee Meeting, FCM)
	13:00-15:30	企画委員会 (Planning Committee Meeting, PCM)
	16:00-18:30	理事会 (Executive Committee Meeting, ECM)
9/21 (水) CECAR9 Day1	10:00-11:30	開会式 (Inaugural Ceremony)
	12:00-17:45	発表セッション (Plenary Session / Concurrent Technical Session)
9/22 (木) CECAR9 Day2	10:00-17:45	発表セッション (Plenary Session / Concurrent Technical Session)
	18:30-20:30	ACECC 賞授賞式および懇親パーティー (ACECC Award Ceremony / Rainbow Dinner)
9/23 (金) CECAR9 Day3	10:00-11:00	発表セッション (Plenary Session / Concurrent Technical Session)
	11:00-12:00	閉会式 (VALEDICTORY CEREMONY)

論が行われた。

## (3) 理事会

ECMでは、TCCM、PCMでの決定事項が了承された。特にTC-17 (Ethical Practices to Reduce Corruption) を作成されたACECC Code of Ethics Guidelineが、各学協会の倫理規定の参照となるガイドラインとして全会一致で承認された。また、今後のECMの開催予定も協議さ

れ、第44回 E C Mは韓国・済州で2023年4月24日～25日に、第45回 E C Mは台湾で同年9月に、それぞれ開催されることが決定された。なお、2023年は中国土木水利工程学会(C I C H E)が設立50周年



写真1 CECAR9メイン会場における開会式の様子



写真2 CECAR9発表セッションの様子

を迎えることから、記念イベントと併せて第45回 E C Mが行われる予定となっている。

### 3. CECAR9



写真3 ACECC 賞授賞式の集合写真



写真4 CECAR9前日に開催されたACECC理事会の様子

コロナ禍下にもかかわらず J S C E から8人が現地参加した一方で、多数の参加者がオンラインで参加・聴講した。2日間の一般論文セッションで多数の論文が発表されたほか、各 T C によるセッションが開催され、活発な発表と議論が行われた。また、2日目の夜には Award Ceremony が開催され、J S C E 関係者としては、以下の3件に対して A C E C C 賞の記念トロフィーが授与された。

- プロジェクト賞・国土交通省九州地方整備局・熊谷組阿蘇大橋地区斜面防災対策工事
- 功績賞：日下部治氏 (元 ACECC Chair、国際圧入学会専務理事、東京工業大学名誉教授)
- T C 賞：TC21 Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disasters

プロジェクト賞の関連ビデオが上映されるとともに、日下部治名誉教授からは C E C A R 9 参加者に対するビデオメッセージが届けられ、多くの参加者の関心を引いた。また T C 賞については、現地参加した J S C E 側代表(石渡幹夫)が記念トロフィーを直接受け取った。

最終日には閉会式が行われ、次回の C E C A R 開催国である K S C E へ A C

E C C 旗が受け継がれた。C E C A R 10 は、2025年10月21日～24日に韓国・済州で開催される予定となっている。

### 4. おわりに

コロナ禍が収束していないにもかかわらず、現地ではマスク着用者がほとんど見当たらず、日本との大きな違いに戸惑った。また、現地主催者の段取りが直前まで不明確であった点も含め、開催直前まで開催自体が危ぶまれることもあったが、最終的にはとにかく無事に開催されたことに安心した。今回はコロナ禍の影響で現地参加が困難な状況だったが、3年後の C E C A R 10 ではより多くの学会員が現地参加し、アジア各国の関係者と気兼ねなく交流して、活発な議論が行えることを期待したい。なお、CECAR10に関する情報は関連ホームページ (<http://www.cccarl.org/>) にて随時発信されるため、ご確認いただきたい。ACECCでは多様な T C が国際的な協力体制のもとで進められている。現在活動中の T C への参加や、アジアにおける国際的な活動を目指した新たな T C の設立等のご希望があれば、お気軽に A C E C C 担当委員会までご相談いただきたい。